

美濃焼の通つた道～今渡街道～

多治見から美濃焼を輸送したルートに今渡街道があります。今渡街道は多治見橋を起点とし、可児市今渡まで続く約20kmの道のりです。今渡の野市場湊から木曽川を下り、桑名から江戸・大坂へ海上輸送をしていました。現在では、当時の面影はあまり残っていませんが、道々に残る石造物が往時の賑わいを伝えています。



↑248号線沿い牧峠の馬頭観音。今も行き交う人々を見守る。（大針町）

道の守り神・馬頭観音

頭上に馬頭の冠をのせた馬頭観音は、馬方や馬車組合などの輸送業者による建立も多く、街道の守り神として広く信仰があったことがわかります。



↑池田町の下街道と今渡街道の分岐点に立つ道標（左）と大正時代に建てられた道路元標（右）。街道の要所であったことがわかる。

郷土のことについて調べるなら
郷土資料室へ

多治見市図書館郷土資料室

【場所】多治見市豊岡町1-55 まなびパークたじみ4階 JR多治見駅より徒歩5分

【電話】0572-23-3783

【開室時間】火～土曜日 10時～17時(日・月・祝日・年末年始は休室) ※図書館とは開室日・時間が異なりますのでご注意ください



荷馬車や馬背の陸上輸送

明治33年(1900)の中央線名古屋～多治見間の開通以前は、馬や荷馬車・荷車を使った陸上輸送が主な手段でした。列車での美濃焼輸送が中心となった後も、生活物資や窯燃料の薪などを可児・姫方面から多治見へ運ぶために人々の生活に欠かせない重要な道路として今渡街道は活躍しました。



↑昭和30年代まで町のあちこちで荷馬車が見られた。

もう一つの今渡街道

下街道の宿場町であった池田町屋村の三叉路(現池田町4丁目JAとうど)から分岐し、喜多町を北上して宝町の池田の辻で今渡街道と合流する道も今渡街道と呼ばれていました。池田町の分岐地点には、「左きふたにくみ道(岐阜谷汲道)、左なごやいせ道、右東京ぜんこうじ道」という道標が建てられています。



地元に関する資料や市民の皆様から寄せられた文書や記録などを整理し保管しています。保管資料は利用者の方の調べ学習・研究などにもご利用頂けます。

地域の歴史に関するご相談は、郷土資料室までお問合せ下さい。市民の皆様からの郷土資料のご寄贈や情報の提供も募集しております。